本日、新発田市長　二階堂　馨　様をはじめ、多数のご来賓の皆様、地域や保護者の皆様、卒業生の皆様、そして、旧職員の皆様には、公私にわたってご多用なところ、ご臨席を賜りまして誠にありがとうございます。また、この閉校記念式典の開催に当たり、関係者の皆さまに多大なご尽力をいただきましたことに重ねてお礼申し上げます。

この度の新発田市立藤塚小学校閉校に際しまして、校長として一言ご挨拶申し上げます。

さて、本校の歴史をひも解くと、明治七年六月十五日に、「公立第八中学区第十五番小学附属藤塚校」という名前で、不動院の一部を借りて開校しました。その時の児童数は約四十名、職員は二名であったそうです。そして、今日まで幾多の素晴らしい人材を輩出し、輝かしい歴史と伝統を築き、現在に至っております。

私は、閉校前のこの二年間、藤塚小学校にお世話になりました。赴任当初から、「自分自身のキラリ、友達のキラリ、学校や地域のキラリ」といった三つのキラリを見付けていくことをとおしながら、子どもたちの「かかわる力」を高めることを大切にしてきました。

子どもたちが生きるこれからの社会は、考えや思いが異なる人とも協力し合っていくことが一層強く求められる社会と言われています。自分と違うからといって排除したり差別したりするのではなく、違いを認め合いながら創り出していく力が求められています。

子どもたちの「かかわる力」について、この二年間で、感動したことが何度もありました。特に二つのことを紹介します。

一つめは、全校の子どもたちにとって藤塚小学校がさらに楽しい学校になるように、六年生の子どもたちや委員会の子どもたちが、例年にない数々のイベントを企画してくれたことです。活動を行っていく中で、時には、仲間と考えや思いがくい違う場面もあったかもしれません。しかし、仲間とかかわりながら、それらを一つ一つ乗り越えていくことにより、子どもたちは自信や充実感を大きく感じたことと思います。

二つめは、子どもたちから子どもたちに代々引き継がれていった「藤塚浜大漁太鼓」です。

次年度引き継ぐ子どもたちに一生懸命に寄り添って教えてくれた六年生の子どもたち。そして、六年生の技と思いを精一杯受け止めて、必死に練習していった子どもたち。さらに、誇らしげな上学年の子どもたちの演奏を全身で聴き入る下学年の子どもたち。「大漁太鼓」をとおして、子どもたちの「かかわる力」も高まっていったのではないかと強く感じています。

来る四月には、新生「紫雲寺小学校」としてスタートします。新たな環境になっても、子どもたちは「かかわる力」を発揮し、自分らしさを大切にしながら成長していくと信じています。

結びになりますが、これまで長きにわたり藤塚小学校の発展にご尽力賜りました全ての関係者の皆様に深く感謝を申し上げるとともに、子どもたちの未来が一層健やかなものでありますよう心からお祈り申し上げて挨拶といたします。

令和６年 11 月 16 日

新発田市立藤塚小学校　校長　山田　耕世